

18年度 Q1 決算電話会議 質疑応答要約

Q) P&S 事業の Q1 業績をまとめるとどう評価なのか？

A) 売上に関しては、IJP・LBP のハードは、欧米はやや弱めだったことに対して、アジア・中国が好調だったことで、全体では社内計画を上回った。消耗品も同様に計画を上振れて推移した。利益面も、製品ミックスが想定よりも良かったことや、消耗品の上振れ、経費減などの要因により、計画を上回った。市場環境についても落ち着いており、大きな変化はない。

Q) P&S は Q1 で計画を上振れたが通期予想を変更していない。何か明確なリスク要因があるのか？

A) Q1 の業績は社内計画を上回ったが、為替や米中貿易摩擦などのマクロ的なリスク要素もあるので、今回は据え置きとした。特に明確なリスクを織り込んだものではない。

Q) 工作機械の Q1 実績は自動車関連向けが非常に好調だったが、これは想定どおりなのか？

A) 想定どおり。中国を筆頭に小型の工作機械に対するニーズが高く、受注が好調だったことに加え、営業拠点の強化なども継続して取り組んできたことで、IT の落ち込みをカバーすることができた。

Q) 足元では工作機械の受注環境に減速感はあるか？

A) 自動車関連など、中国での受注には減速感が出てきている。IT 関連については、もともと期初時点から大口案件を見込んでいないが、Q1 時点でもその見方を変えなければならないという要素はない。

Q) 工業用マシンが各地域とも好調だが、要因はなにか？

A) 中国での好調が続いていることに加え、アジアも回復傾向が感じられる。欧米については、衣類用のプリンターである「ガーメントプリンター」が好調なことが大きい。

Q) P&H 事業の損益が改善しているのはなぜか？

A) Q1 は新製品投入前の買い控えもあり、売上は減収だった。営業損益が大きく改善したのは、昨年あった為替予約の評価損が無くなったことが要因。家庭用マシンはこれからがセールスシーズンであり、最高級マシンの新製品効果により、年間では増収・増益を期待している。

以上